

令和7年度 第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和7年6月27日（金）13時30分から15時00分まで	
開催場所		多摩区役所 6階 601会議室	
出席者の氏名	委 員	和秀俊（田園調布学園大学） 櫛笥永晴（多摩区医師会） 楠静子（多摩区老人クラブ連合会） 小山富士子（多摩区子ども会連合会）	坂本顕隆（多摩区町会連合会） 島峯諭（多摩区商店街連合会） 永井浩之（登戸地域包括支援センター） 眞壁総子（多摩区こども総合支援連携会議）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議 事務局	佐藤直樹（多摩区長） 渡曾勝行（危機管理担当課長） 大塚裕司（総務課長） 佐藤直子（企画課長） 柏原美由紀（地域振興課長） 板尾康章（生涯学習支援課長） 上野進（生田出張所長） 大津美和（区民課長） 石渡慎也（保険年金課長） 土岐岳子（地域みまもり支援センター担当課長） 中山礼子（児童家庭課長） 小泉朋子（高齢・障害課長） 高橋みゆき（保護第1課長） 根岸友絵（保護第2課長） 瀧澤祐子（保育所等・地域連携担当課長） 南奈保美（学校・地域連携担当課長）	武田克巳（地域みまもり支援センター所長） 浅見政俊（地域みまもり支援センター副所長） 深澤隆行（地域支援課長） 永山友里江（地域支援課地域サポート係長） 林史大（地域ケア推進課長） 杉本光一郎（地域ケア推進課企画調整係長） 内田圭（地域ケア推進課企画調整係） 高橋公（地域ケア推進課企画調整係）
	関係者	舟橋健之（川崎市多摩区社会福祉協議会地域課長）	
欠席委員		一柳宗義（多摩区民生委員児童委員協議会） 大澤敏夫（川崎市多摩区社会福祉協議会） 小川町子（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 川村由布子（多摩区地域自立支援協議会）	
議 事		（1）第7期多摩区地域福祉計画の令和6年度事業評価について （2）地域包括ケアシステム構築に向けた多摩区の実践について （3）地域とのつながりづくりを促すイベントの効果的な実施について	
傍聴人の数		なし	

配付資料	[配布資料] 資料1…名簿 資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議について 資料3…第7期各区地域福祉計画（令和6～8年度）における評価に係る考え方について 資料4…第7期多摩区地域福祉計画 令和6年度評価 資料5…第7期多摩区地域福祉計画 令和6年度事業評価シート 資料6…地域包括ケアシステム構築に向けた令和7年度の主な取組について 資料7…地域とのつながりづくりを促すイベントの効果的な実施について 参考資料1…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 参考資料2…第7期川崎市地域福祉実態調査について（案） 参考資料3…令和6年度第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議会議録 [冊子資料] 第7期多摩区地域福祉計画 冊子、概要版
--------------------	---

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（林課長）	次第1（開会）
	（会議録作成のため録音の承認）
佐藤区長	次第2（挨拶）
事務局（林課長）	・配布資料の確認
事務局（林課長）	次第3（新任委員の自己紹介）
事務局 （杉本係長→林課長）	次第4（多摩区支え合いのまちづくり推進会議について）（杉本係長）
	進行調整役を和委員にお願いしたい旨提案→承認
和委員	僭越ながら進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは次第に従い議事を進行する。 議事（1）について 事務局から説明をお願いします。
事務局（内田職員）	次第5（議事）
	（1）第7期多摩区地域福祉計画の令和6年度事業評価について 資料3、4、5の説明
和委員	委員の皆様からご質問・ご意見があればお伺いしたい。
坂本委員	川崎市高齢者生活状況調査について、対象者はどのように抽出したのか。
小泉課長 （高齢・障害課）	市内在住、75歳以上の単身もしくは75歳以上の方だけで暮らしている世帯のうち、介護保険サービス等を利用していないなど、一定の条件に当てはまる方を対象としている。
坂本委員	資料5で「2 目標を上回って達成」の項目は4つあるものの、資料4で、総評として「3 目標をほぼ達成」としている理由は。
事務局（杉本係長）	全部で70事業以上ある中で、目標を上回ったものが4事業であるため、総評としては「3 目標をほぼ達成」が妥当と判断しているところである。
和委員	事業番号6「多摩区地域包括ケアシステムの普及啓発・地域情報の発信」では小学生向けにタウンニュースを発行しているほか、事業番号8「認知症についての正しい理解の普及啓発」でも小学校での展示を行っており、子どもへの普及啓発に取り組んでいる点が特徴的だと感じた。子ども関連の団体に所属されている、眞壁委員、小山委員からご感想・ご意見を伺いたい。
小山委員	子ども会を長いことやっているが、子どもへの普及啓発はとても大切で、良い取り組みだと思う。自分自身も高齢者として、子どもたちの行動から思いやりや労わりの気持ちを感じることがあるが、若い世代に普及啓発していく意義は大変重要だと考える。
眞壁委員	中学生の保護者から聞いた話だが、認知症の高齢者に対して、「怖い」「気持ち悪い」という印象を抱いていた子どもが、認知症サポーター養成講座を受講した結果、認知症への理解が深まり、高齢者へ優しい言葉をかけようという気持ちに

発言者	発言要旨
	変わったり、自由研究の題材として取り上げたりした事例があるとのことだった。小さくてもこのような事例が広がって欲しい。子どもへの普及啓発の取組は、長く続けて欲しいと考える。
和委員	貴重な現場のご意見をいただいた。 続いて、議事（２）について 事務局から説明をお願いします。
事務局（杉本係長）	次第５（議事） （２）地域包括ケアシステム構築に向けた多摩区の取組について
	資料６の説明
和委員	委員の皆様からご質問・ご意見があれば伺いたい。
櫛笥委員	５地区で独自の取組をしているとのことだが、どういったメンバーで話し合っ て取組を行っているのか、詳しく教えてもらいたい。
事務局（杉本係長）	菅地区を例にとると、民生委員児童委員、地区社協、地域包括支援センター、 民間の活動団体等、合計３５団体程が参加する協議会において、地域における困 り事に対して、各団体同士の強みや、やってみたいと思うこと等を話し合い、新 しい取り組みを生み出すことを目的としている。一つの事例として、コロナ禍で サロンやカフェが減少し、高齢者の居場所が失われてしまったという課題に対し、 協議会で話し合った結果、高齢者施設「花織たま北」と、地域包括支援センター が連携し、新しいカフェを立ち上げた。このような有機的な取り組みを進めてい るところである。
永井委員	地ケアフォーラムについて、非常に重要な意義があると感じた。参加団体も含 め１３０人程度が参加したとの記載があったが、参加団体を除くと実際にはどの くらいの人数だったのか。年齢層や男女比についても伺いたい。
事務局（杉本係長）	参加団体を除き、約８０～９０人程が参加した。男女比では女性が多く、年齢 では６０歳以上の方が多かった。
坂本委員	地ケアフォーラムの「ちょこっと活動見学」の参加者が合計１６名というこ とで、定員に対してかなり少ないと感じる。事務局の見解を伺いたい。
事務局（杉本係長）	事務局としても、かなり少ないと感じている。この点を改善したいという思い もあり、本日、議事３として「地域とのつながりづくりを促すイベントの効果的 な実施について」を取り上げさせていただいた。また、参加者アンケートの結果 から、活動見学に参加しなかった理由として「時間の都合がつかない」が一番多 かったため、平日ではなく土日等、より多くの人に参加しやすい時間帯での開催 を検討している。
和委員	地ケアフォーラムについては、この後の議事でより一層、議論を深めていき たいと考えているので、よろしくお願いしたい。 多摩区子育て支援パスポートの電子化について、島峯委員からお話を伺いたい。
島峯委員	事業の概要について説明させていただく。１８歳未満の子どもがいる世帯を対 象に、「多摩区子育て支援パスポート」を発行しており、利用者がお店でパスポ ートを掲示すると、店独自のサービスを受けられるほか、たまたま子育てまつりや、

発言者	発言要旨
	各単会独自のイベントでも特典がある。
和委員	パスポートの電子化というのは、やはり避けられない状況があるのか。
島峯委員	避けられない状況があると感じる。商店街の状況は、パスポート事業がスタートした当時とは大分変わってきている。参加店舗自体の減少もあるが、チェーン店の割合が高くなり、物販より理容・美容などのサービス業の割合が高くなっている中、どうやって子育て世帯をサポートしていけるか。事業の内容も、見直しなくてはならない状況であり、電子化もその中の一つだと考えている。
楠委員	パスポートはどうしたら発行してもらえるのか。対象者は。
島峯委員	地域支援課の窓口にて、母子手帳の交付時に配布しているほか、たまに子育てまつり等のイベントでも発行している。対象は、18歳未満の子どもがいる世帯である。利用期限がわかりにくいという声があったが、パスポートの電子化により、わかりやすくなる予定である。
和委員	多摩区子育て支援パスポートは、自分も使っているが、子どもが18歳になるまで有効というのは知らなかった。パスポートの電子化によって、見守りなど、他の分野にもつながっていくことが期待できるのではないかと感じた。 議事（3）について 事務局から説明をお願いします。
事務局（高橋職員）	次第5（議事）
	（3）地域とのつながりづくりを促すイベントの効果的な実施について 資料7の説明
和委員	まずは、各委員の皆様が所属されている団体や、身近なところで、チラシを配布・配架してもらえたらありがたい。また、地ケアフォーラムについてはぜひ、自分ごとと捉えて、委員の皆様からご意見をいただきたい。
楠委員	老人クラブ連合会もまさに、人手不足の問題で悩んでいる。地ケアフォーラムにも出展させていただきたい。参加団体はどのように選定しているのか。
事務局（高橋職員）	資料7の7ページに昨年度の参加団体を掲載している。地域ケア推進課でどういったジャンルがあるか検討し、各団体へ当課からお声掛けをした。
楠委員	今後、特に団塊の世代には、老人クラブ連合会へ加入していただきたい。認知症予防、健康寿命を延ばすことにもかなりの効果があると感じている。そういった意味でも、地ケアフォーラムで、老人クラブ連合会を知ってもらい、より多くの方の加入に繋げたい。
事務局（高橋職員）	是非、ご参加いただけるとありがたい。日程等、詳細が決まったら改めてお知らせさせていただく。
事務局（杉本係長）	団体紹介シートの作成や、見学会の実施についても、改めて相談をさせていただければと思う。
和委員	マッチングが成立したと思う。今の例にもあるように、地ケアフォーラムは、皆様が所属している活動団体の方が抱える「担い手不足」の課題を解決する取組と考えている。似たような状況が町内会でもあるのではないかと。坂本委員からご

発言者	発言要旨
	意見を伺いたい。
坂本委員	町内会でもやはり、会員数の減少が課題となっている。昨年度の会議では、幸区で町内会加入率が増加した事例について、持ち帰り後日、回答することになっていたと思うが、どうなったか。
事務局（杉本係長）	議事録を送付する際、幸区の事例に関する資料を添付させていただいたところである。
坂本委員	幸区の事例を、多摩区でどう活かすかについて伺いたい。昨年度の会議にて、上野所長が幸区の事例をお話されていたと思うが。
上野所長 （生田出張所）	幸区では、一昨年、大型マンションの建設に際し、事前に行政から情報を提供する機会を設け、そこで丁寧に町内会・自治会についての説明を行った結果、約1,000世帯が加入したことで、加入率が上昇したと聞いている。保育園の情報や、各種手続き等、他部署とも連携し、積極的な情報提供を行ったことが多くの加入につながったと推察される。
坂本委員	多摩区でも、登戸・向ヶ丘遊園駅を中心に大型マンションの建設が進んでいるところである。事前に行政側から手続き等の説明を行うといったことは中々ないと思うが、多摩区としてはどのように考えているのか。武蔵小杉地区では町内会が解散したというニュースがあったが、多摩区でも同じようなことが起こるのではないかと危惧している。大型マンションの建設前に、行政から事前に働きかけることは重要だと思うので、ぜひ考えていただきたい。
和委員	地ケアフォーラムで町内会の魅力を伝えていくことも有効ではないか。前回の地ケアフォーラムで、町内会のブースはどのような内容だったのか伺いたい。
事務局（杉本係長）	ブースには、区役所地域振興課の町内会担当が、相談に来た方に各町内会の事例紹介を行い、希望する方は町内会に繋げていったと聞いている。
和委員	町内会の魅力をアピールして、加入希望者が多くなるように工夫する必要があるかもしれない。
坂本委員	町内会に加入するメリットは中々目に見えないが、一番大きいのは、やはり防災だと思う。また、地域によってはお祭りなどもある。
佐藤区長	町内会については市民文化局が所管しており、加入促進の具体的な取組内容についてもっと考えなければならないと思っている。町内会の皆様にもぜひ、アイデアをいただきたい。町内会には選挙、民生委員児童委員など、多くのことをお願いしている状況であり、全庁的に取り組むべき課題だと考えている。
和委員	私自身は町内会の組織を一旦「スクラップ・アンド・ビルド」するべきだと考えている。スクラップしたらそのまま無くなってしまうという意見もあるが、必要なもので再構成していけば良い。今の町内会は、昭和の時代から続く「しがらみ」に近い組織で、若い世代にとっては加入しにくい状況である。各地域、町内会に合った形で構成できれば良いと思う。
佐藤区長	多摩区では登戸区画整理事業が進み、かつての町内会がバラバラになってしまった状況があると伺っている。和委員のご意見も参考にさせていただきたい。

発言者	発言要旨
坂本委員	町内会は元々、行政の「下請け」のような側面があり、そういった経緯を考えると、必要なものだけを残して「スクラップ・アンド・ビルド」ということがどこまで実現できるか、難しいところがあると思う。ただ、若い世代の加入促進のために、そういった方向も考えていきたい。
和委員	多摩区らしい町内会のかたちでできればと思う。同じく、担い手不足の問題が子ども会でもあると思うが、小山委員からご意見を伺いたい。
小山委員	栗谷地区では、岸家のお祭りを毎年やっていたが、高齢化で続けられなくなりつつあるため、町内会と一緒に「お祭り実行委員会」を立ち上げた。多数の方が集まり、大盛況となった。若い世代も加入してくれた。そういった方が町内会にも加入してくれたら良いと思う。私自身、盆踊りではいつも町内会・子ども会への加入を呼びかけている。色々な団体・人々の力を合わせて協力していく必要があると感じている。
和委員	やはり祭りというのは大きな魅力かもしれないと感じる。 担い手不足の問題について、眞壁委員の団体ではどうか。ご意見を伺いたい。
眞壁委員	団体の活動は30年以上続いているが、スタッフが高齢化し、若い世代は中々入らない。若い世代が入っても育休中の短い期間だけであったり、育児や仕事で忙しい世代は地域活動が難しい印象である。今年は、同じような悩みを抱える団体と協力し、それぞれの強みを活かして、例えば資料作成等、手間がかかる部分はこちらで行い、実際のイベントの運営は任せる等の方法でやってみようと考えている。地ケ算の取組も活用させてもらえたらと考えている。
和委員	例えば、仕事・育児が一段落した方が、地域活動に貢献するということも考えられると思う。地ケアフォーラムについて、永井委員にもご意見を伺いたい。
永井委員	地域包括支援センターの業務では、65歳以上の高齢者の方と接することが多く、地ケアフォーラムがターゲットとしている50～60歳の方々とお会いする機会は少ない。ただ、高齢者の方で、色々な問題を抱えているにも関わらずSOSを発することができない方は、地域とのつながりが希薄で、家族との交流も少ない方も多く、そういう意味では、地ケアフォーラムは私たちの業務の目的とも一致する。小山委員、眞壁委員から、当事者の方の参加というお話があったが、例えば、これまで地ケアフォーラムに参加された方々に企画を考えてもらうというのも、一つの方法ではないか。また、50～60歳の方々が日常生活で行きそうな場所、例えば商店街や、スーパーにチラシを配架してもらうのはどうか。私たちも、対象となる世代の方にお会いした際に、チラシを配布することはできると思う。
和委員	貴重なご意見に感謝する。最後に、櫛笥委員に医療的な見地からのご意見を伺いたい。
櫛笥委員	私のクリニックでは、60代男性で、独居、食事はコンビニ食が多く、友人が少なそうな方がいる。そういった方に向けて、診察室の中で、チラシを渡して提案することは有効だと思う。ポスターや配架チラシは、中々見てもらえない可能性があるが、「私からあなたへのメッセージ」としてチラシを配布すれば、かなり

発言者	発言要旨
	強い印象を与えられると思う。
和委員	先生に言われるとかなり説得力があると思う。ぜひ医師会でもご検討いただけたらと思う。 委員の皆様の貴重なご意見に感謝する。以上をもって議事を終了する。進行を事務局へお渡しする。
事務局（林課長）	和委員、議事の進行ありがとうございました。閉会にあたり、地域みまもり支援センター所長の武田からご挨拶を申し上げる。
武田所長	委員の皆様、長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。各団体それぞれに課題があり、同時に成功例があると感じた。こういった各団体の持つ強みを、団体の垣根を越えて結び付けていくことが、「地ヶ算」の一つの基本的な考え方である。このような会議を重ねつつ、多摩区が住みやすいエリアになっていくことが区役所の一つのミッションである。引き続き、こういった場を超えて相互にご協力いただければと思う。本日はどうもありがとうございました。
事務局（林課長）	以上をもちまして令和7年度第1回支え合いのまちづくり推進会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。